会社概要

会社名	日野自動車株式会社
事業内容	トラック・バス、小型商用車・乗用車(トヨタ自動車(株)よりの受託車)、各種エンジン、補給部品等の製造
本社所在地	東京都日野市日野台3丁目1番地1
創業	1910年(明治43年)8月1日
設立	1942年(昭和17年)5月1日
資本金	72,717百万円※1

※1　2019年3月31日時点(連結)
※2　2018年度(連結)

従業員数※1
34,069人

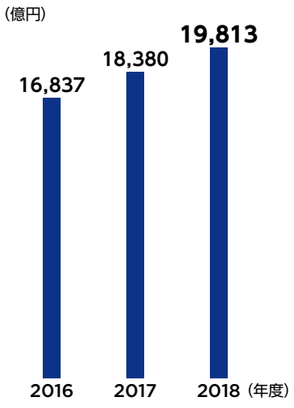
売上高※2
19,813億円

営業利益※2
867億円

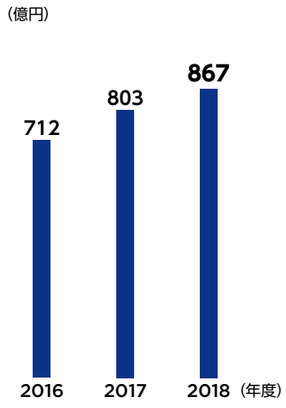
親会社株主に帰属する当期純利益※2
549億円

業績の推移

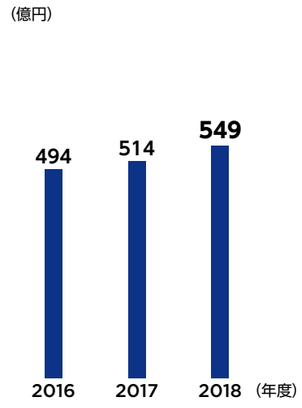
●売上高



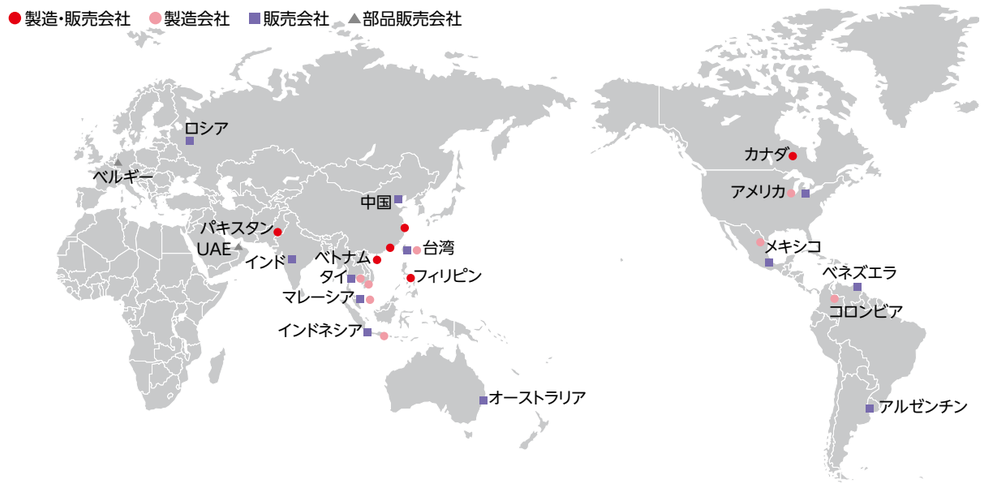
●営業利益



●親会社株主に帰属する当期純利益

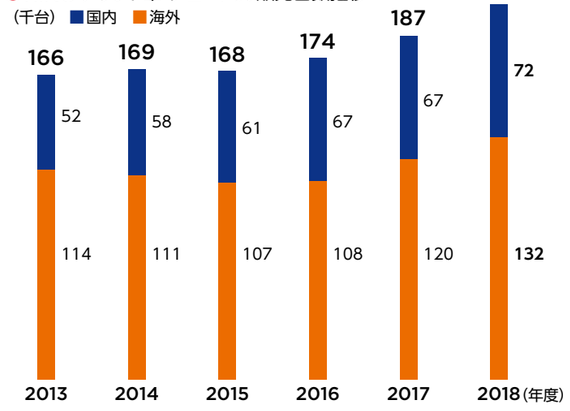


海外事業体(投資会社) 2019年7月現在



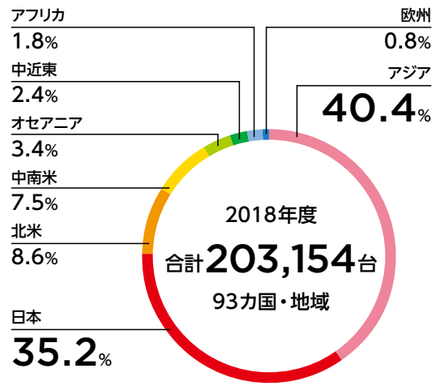
グローバル販売台数推移／地域別販売構成比

●HINOブランド車 グローバル販売台数推移



※過去最高販売台数

●地域別販売構成比



CONTENTS

4. 日野自動車のあゆみ
6. トップインタビュー
10. HINO基本理念
12. サステナブルな社会の実現に向けて
12. 日野自動車の価値創造
14. 中長期経営戦略「Challenge2025」
17. 3つの方向性
・安全・環境技術を追求した最適商品
・最高にカスタマイズされたトータルサポート
・新たな領域へのチャレンジ
24. SDGsと日野の戦略・取り組み
34. CSRマネジメント
36. 特集
36. 地域活性化につながるお客様貢献活動
南大東島とともに生きる
39. 地域の物流を支える取り組み
トータルサポートの源流
43. ESGの取り組み
44. Environment 環境
44. 環境憲章
45. 日野環境チャレンジ2050
76. 主要パフォーマンスデータ
77. 環境マネジメント
83. マテリアルバランス
84. Social 社会
84. 安全
90. 健康
94. 品質
99. 人権の尊重
100. 人づくり・働き方
113. サプライチェーン
115. 社会貢献活動
119. Governance 企業統治
119. コーポレート・ガバナンス
122. 社外取締役メッセージ
124. コンプライアンス・リスク管理
127. ESGデータ集・その他
127. ESGデータ集
128. GRIスタンダード内容索引
142. ISO26000対照表
143. 編集方針
144. 第三者意見

HINO サステナビリティレポート 2019

HISTORY of Hino Motors 日野自動車のあゆみ

1917年に日本人の設計による初の純国産トラックの試作に成功して以来、人と物の移動を技術で支えてきました。戦後はディーゼルエンジンを搭載したトレーラートラックで日本の復興を支え、高度成長期には大量輸送を担うトラックやバスを開発。近年では、AI・IoTなどの最新技術を駆使して、人と物の移動にまつわる社会課題に挑んでいます。いま100年に一度といわれる大変革の時代、日野自動車の新たな挑戦がはじまっています。

● TGE-A型トラック(1917年)
日本初の純国産トラックで、日野自動車の原点となる。

● 日野コンテッサ1300デラックス(1964年)
第11回東京モーターショーに出展した世界戦略車「コンテッサ1300デラックス」。性能の高さとデザイン性に世界から絶賛の声が集まった。

● HIMR(1989年)
第28回東京モーターショーでお披露目した世界初のハイブリッドバス。1991年に市販開始となった。

● T10-20型 トレーラートラック(1946年)
純国産の大型トラックは、敗戦で自信を失った国民を勇気づけた。

● 日野スーパードルフィン(ドルフィンターボ8.8)(1981年)
世界初のダウンサイジングエンジン、世界初のカーブ・インペラー・ターボコンプレッサーなど、新しいアイデアと技術が満載のパワフルな低公害車の誕生。

1910s
ガス灯から自動車産業へ
日野自動車の歴史は、1910年の東京瓦斯工業設立からはじまる。当時、ガス事業は近代化の象徴だったが、新しい時代の到来を予感し、自動車産業に進出。

1940s
ディーゼルエンジントラックから復興のスタート
戦時下で開発していたディーゼルエンジンの技術を活かし、巨大なトレーラートラックを開発。

1950s
総合自動車メーカーへの礎を築く
高度成長期の幕開け。景気の波に乗って自動車メーカーの増産が続き、本格的なモータリゼーションがはじまる。

1960s
モータリゼーションに挑む
1966年にトヨタと提携。日野自動車の乗用車は生産中止となる一方、「トヨタハイラックス」を羽村工場で生産開始。トヨタ日野連合の礎を築く。

1970s
No.1トラックメーカーとして排ガス規制に取り組む
日野自動車が国内大中型トラックトップシェアメーカーとなった翌年の1974年からディーゼル車排ガス規制が始まる。段階的に規制が厳しくなるなか、技術陣は基準のクリアに挑み続けた。

1980s
日野が環境技術をリードする時代へ
自動車メーカー各社がさまざまな技術を競い合った1980年代。日野自動車の技術陣も独自の環境技術をきわめ、その後のハイブリッド時代の先鞭をつけた。

1990s
日本の日野から世界のHINOへ
会社創立50周年(1994年)を機に、企業理念とロゴマークを刷新。円高の影響で海外生産が本格化するなか、グローバル体制づくりを強化。

2000s
トヨタグループの一員として
トヨタ自動車の子会社となり(2001年)、「HINO」ブランドとしてトヨタグループのバス・トラック部門を担う。2007年に海外販売台数が国内販売台数を初めて上回る。

2010s
真のグローバル企業として新たな挑戦
世界的な環境規制の強化を背景にEVシフトが加速。ICT技術の進歩に伴いコネクティッドカーや自動運転に期待が集まり、自動車産業は100年に一度の大転換期を迎える。

2018〜
お客様・社会課題の解決に向け事業変革を加速
お客様・社会の課題解決に向けて、2018年10月に中長期経営戦略「Challenge2025」を発表。同じ志を持った「仲間づくり」をさらに推進していき、日野自動車の新たな領域への挑戦は続く。

Toward the Future

年	出来事
1914	第一次世界大戦勃発
1923	関東大震災
1929	世界恐慌
1939	第二次世界大戦勃発
1945	終戦
1947	湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞
1947	日本国憲法施行
1954	第一回全日本自動車ショウ
1958	東京タワー開業
1963	日本初の高速道路、名神高速道路が誕生
1964	東京オリンピック
1969	東名高速道路開通
1970	大阪万博
1972	沖縄返還
1985	プラザ合意
1986	男女雇用機会均等法施行
1991	バブル経済の崩壊
1993	EU誕生
1995	阪神・淡路大震災
1997	京都議定書採択
2001	アメリカ同時多発テロ
2005	愛・地球博(愛知万博)開催
2008	リーマンショック
2011	東日本大震災
2012	東京スカイツリー開業
2016	北海道新幹線開業
2018	西日本豪雨
2019	新元号「令和」
2020	東京オリンピック・パラリンピック

1942年
● 日野重工業株式会社として分社・設立
写真は太平洋戦争末期の日野工場。

1953年
● ルノー公団との提携
ルノー公団との技術提携を結び、ルノー4CV(小型乗用車)を生産(1953年〜1961年)。

1962年
● 初の海外進出
1962年、タイにて海外初の販売代理店「Victory Automobiles Co.,Ltd.」誕生。その後、1964年に初の海外製造会社「タイ日野工業(THI)」を設立。日野の海外進出の第一歩となった。

1966年
● トヨタとの提携
トヨタ自動車工業(株)・トヨタ自動車販売(株)(現、トヨタ自動車(株))と業務提携を締結。

1997年
● ダカールラリー
1991年にダカールラリー初参戦。1997年には総合1位、2位、3位を独占し、過酷な環境にも力を発揮する日野自動車の実力を世界に見せつけた。2019年で連続28回出場。

2017年
● 古河工場
グローバル生産体制の構築を狙い国内工場を再編し、最大規模・最新鋭の工場となった。大中型車両生産のマザー工場として2017年より本格稼働。

2018年
● フォルクスワーゲン トラック&バスとの提携
VOLKSWAGEN TRUCK & BUS(現TRATON GROUP)と戦略的協力関係の構築に向け合意。

2019年
● MONETと提携、MaaSのプラットフォーム拡充
トヨタ自動車とソフトバンクの共同出資会社「MONET Technologies」と資本・業務提携。モビリティイノベーションの実現に向けて、お客様・社会課題の解決や新たな価値の創造を目指す。

● HINO600
北米市場で主流のボンネットタイプを北米専用車として開発。のちに全米トラックディーラー協会の2011年トラック・オブ・ザ・イヤー(中型部門)を受賞。

● 日野デュトロ ハイブリッド
2003年に発売。「ヒノノニトン」の愛称で親しまれている小型トラック「デュトロ」に、環境問題の深刻化を見据えハイブリッドシステムを搭載。日野自動車のハイブリッド車のイメージリーダー的存在。

● 日野レンジャー
2017年、16年ぶりにフルモデルチェンジ。2018年には安全性能や燃費性能の向上に加えて快適性能を追求してマイナーチェンジ。

● 日野プロフィア ハイブリッド
2019年新発売。AIを活用した世界初のハイブリッドシステムを搭載し、ディーゼル車の基本性能をそのままに、環境負荷低減やドライバーの疲労軽減にも貢献。

● 日野ポンチョ
コミュニティーバスに最適な乗り降りしやすい低床と広いフルフラットスペースが特長で、2006年のグッドデザイン賞を受賞した。

● 日野セレガ
トラック・バス世界初となる「ドライバー異常時対応システム(EDSS)」を標準装備した次世代型の大型観光バス。2019年には、最新AI技術の機能を追加しマイナーチェンジ。

● 日野ブルーリボン ハイブリッド 連節バス
環境問題や運輸業界のドライバー不足といった社会課題解決のため、いすゞ自動車と国産初のハイブリッド連節バスを共同開発。路線バスでは世界初のEDSSとなる標準装備、大量輸送と高い安全性を両立。